

午前八時から敷班に分れ、上野驛から省線を利用して東京驛へ向つた。それから楠公銅像を仰ぎながら

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政務進捗を速めて、村方充實を主眼とする。
- 二、村内公私各種團體の活動状況を把握し、併せて其協力を計り、整理和協努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の慈善事業を奨励し、之を發達せしむ。
- 五、本村に本村の特色及本村の特色者その聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、て國運に資する。

# 内郷村報

天法人則  
ニ從順ナ  
ルベシ

## 國は百億縣は一億

### 我村では二百餘萬圓

國民精神總動員 大内 民 惠  
福島縣實行委員

君島縣知事を會長とし、縣下あらゆる方面の代表者五十八名を其委員とし、縣官二十三名を其幹事并に書記とする。國民精神總動員福島縣實行委員會は、一億圓貯蓄達成の爲に、六月十二日縣教育會館に第三回總會が開催せられ、予は縣下千二百の方面委員を代表、其一員としてそれに列席、私見を開陳すると共に、知事の諮問に對して、其總意をまごむる答申書作製委員にも選ばれて、之に參した次第であつた。此事局に當面して、國としては百億圓縣としては一億圓の貯蓄増加を對當せられ、百六十萬縣民は一人當り六十二圓五十錢、我三萬五千の内郷村民は、二百十八萬七千五百圓を分擔せねばならぬ勘定

となつたのである。予は其責任上、村當局は勿論、郡内の同僚金成貴族院議員、青沼市長、篠山校長等と協議の上、郡下市町村當局と協力して、其目的達成の具體策を講ずる考ではあるが先づ茲に取敢へず、知事の諮問と、それに對する我等の答申書の全文を掲載して我村郡は勿論、縣下一般の認識發同を得て、此が實現に邁進しやうと思ふのである。

#### 知事ノ諮問

國民精神總動員 福島縣實行委員 會 長 福島縣知事 君島清吉

第一、研究部會、於仙台公會堂、都市向軍事接援實例の發表研究。第二、部會、於東京帝大法文學部講堂、農村向軍事接援實例の發表研究。

國民貯蓄獎勵運動開始以來貯蓄ノ増加ハ各方面ノ協力ニ依リ順調ナル狀況ヲ示セルモ未ダ必ズシモ充分ナリト稱シ難シ惟フニ事變ハ既ニ新ナル段階ニ入り武力戰ヲ併行シテ大陸經營ノ巨歩ヲ進メ、アリ即チ東亞新秩序ノ建設ハ愈々其緒ニ就ケルモノニシテ之ガ達成ノ爲ニ今後巨額ノ資金ト多量ノ物資トヲ必要トシテハ待テズ貯蓄増加ノ必要ハ益々増大シ來レルモノト謂フベシ更ニ我國ノ當面スル物價及物資供給ノ問題ヲ克復スル爲ニモ消費節約貯蓄實行ノ強化徹底ヲ圖ルノ要極メテ緊切ナルモノアリ是ニ戰時財政經濟政策ノ成否ハ繫ツテ國民貯蓄實行ノ如何ニアリト謂ハザルベカラズ

自發的ニ貯蓄スル氣風ヲ作興スルコト  
(一) 貯蓄増加百億圓本縣一億圓ノ目標ヲ達成スル爲ニハ縣民舉テ極力生活ヲ緊縮シ日常生活ノ機式ヲ刷新合理化ノ申合セヲ爲サシメ之ガ實行ヲ期スルコト  
(二) 消費節約貯蓄増加トノ實効ヲ收ムルガ爲ニハ各官公署及市役所町村役場銀行會社工場等ニ於テ率先範ヲ示シ此ガ實行ニ當ルノ風ヲ作興スルコト  
(三) 金回收運動ノ實効ヲ擧グルニ協力スルト共ニ資源ノ愛護廢品不急售ノ供出運動ヲ一層強化徹底シ以テ貯蓄増加ニ資スルコト

貯蓄ノ強化  
(一) 都市及股販產業方面ニ對シテハ特ニ力ヲ注ギ高率貯蓄ノ實行ヲ期スルコト  
(二) 都市ニ於テハ貯蓄増加目標額ヲ定メ獎勵計畫ヲ樹立スルコト  
(三) 貯蓄獎勵委員ヲ設ケルコト  
(四) 股販產業方面ニ對シテハ從業者ノ自發的協力ニ依リ勞務者統後生活刷新運動ヲ強化徹底スルコト共ニ各會社、工場、礦山ニ於ケル貯蓄狀況ヲ個別的ニ檢討シ所得増加狀況ヲ考察シテ當該會社、工場、礦山ニ於ケル貯蓄目標額ヲ定メ其ノ實現ニ努メシムルコト  
(五) 股販產業方面ノ從業者ニ對シテハ派費ノ防止、環境整備、教養、餘暇善用等ニ付適當ナル施設ヲ講ゼシムルコト  
(六) 都市又股販產業方面ニ對スル總旨ノ徹底ヲ期スル爲、映畫館、旅館、料理店其ノ他大眾ニ接觸スル機會多キ業者ノ協力ヲ求ムルコト  
(以下二面一段)

### 從業員大募集!

人員 貳千名 (経験が無くても仕事が出来ます)  
内 採炭夫 一〇〇〇名 坑内機械夫 一〇〇〇名  
支柱夫 一〇〇〇名 坑内工作夫 五〇〇名  
坑内運搬夫 一〇〇〇名  
實費會社にて負擔いたします (身体壯健のもの)  
一日四圓以上四圓(請負制)にて就業時間八時間乃至拾時間  
世帯持には住宅を無料で貸與します  
獨身者のために寄宿舎あり(食費廢具共一日四十五錢)  
就業場所 磐城、住吉坑、町田坑(常磐線線路下車)長倉坑湯本驛下車  
希望者は最寄職業紹介所か町村役場又は直接會社に御申込下さい!

貯蓄獎勵一般方策  
(一) 貯蓄ノ實行ハ畢竟國民ノ時局認識ニ懸ルナリ以テ事變長期ニ伴ヒ更ニ認識ヲ深カラシメ一段ノ緊要ヲ促ス機指導スルコト  
(二) 貯蓄獎勵ノ趣旨普及宣傳ニ當リテハ貯蓄ハ國家ノ爲ナルコトヲ説クノミニ止ラズ一身一家ノ爲ナルコトヲモ併テ説キ一層

東北第一の大炭礦!!  
磐城炭礦株式會社礦業所  
(福島縣石城郡内郷村大字綴)

二、貯蓄組合ノ徹底的増加並ニ整備

(一) 貯蓄組合ハ各町内、各部落又ハ學校、團體等各々適當ノ区分ニ從ヒ必ズ之ヲ達成シ全員加入ノ實ヲ舉グルニ努メ徹底的増加ヲ圖ルコト

(二) 貯蓄組合ニ於テハ貯蓄目標額ヲ定メ組合員ノ實力ニ應ジテ可成高率ノ貯蓄ヲ勸奨スルコト共ニ一時ニ多額ノ收入アリタル場合ハ臨時貯蓄ヲ實行セシメ組合貯蓄ノ倍加ヲ期スルコト

(三) 金融機關ノ積極的活動  
(一) 各種金融機關ハ此際夫々目標額ヲ定メ之ニ依リ一層積極的ニ國民貯蓄ノ吸收ニ當ラシムル様關係方面下連絡ヲ密ニシ殊ニ工場、鑛山等ノ地帯ニ於ケル金融機關ハ從業者ノ貯蓄方法ニ付便宜ヲ供與スル方策ヲ講ズルコト

(二) 預金、貯金、信託、無盡、保險年金等各種貯蓄増加ノ方法ニ付工夫ヲ凝スト共ニ國債、貯蓄債券其他確實ナル有價證券ノ購入ニ依リ貯蓄ノ増加ヲ計ルコト

四、物資節約ト生活ノ刷新  
物資節約ト生活ノ刷新トハ貯蓄増加ヲ圖ル爲メ缺クベカラザル要件ナルヲ以テ從來町内會、部落會等ニ於テ申合セテ爲シタル事項ヲ檢討強化シ今次ノ大貯蓄ニ對シテハ一層婦人ノ自覺活動ヲ促スコト

各種對策ノ併進遂行  
一、貯蓄増加ノ目標ヲ達成スル爲メニハ貯蓄獎勵ニ關シテ各種ノ方策ニ基キ計画的且綜合的ニ之ヲ遂行ニ當ルコト  
二、貯蓄獎勵ハ物價對策ト表裏ノ關係ニアルヲ以テ一層相互緊密

ナル連絡ヲ保タシムル事  
三、浪費、奢侈、遊興等ハ嚴ニ之ヲ戒ムルコト

啓發宣傳ノ手段  
一、部落會、町内會ノ活動、部落會、町内會又ハ婦人ノ會合等ニ於テハ毎回市町村長學校長産業團體長等必ズ出席シ時局ノ認識、經濟戰ノ實際ニ付平易簡明ニ説得、自發的貯蓄勵行ヲ誘導スルコト

啓發宣傳ノ手段  
二、青年團ニ對シテハ時局ノ認識ヲ深メ主トシテ勤勞倍加ノ精神ヲ振起シ其ノ收得ヲ以テ貯蓄ニ充テシメ「經濟戰士」タル自覺ノ下ニ奉公ノ誠ヲ竭ケシムルコト  
三、以上ノ如キ啓發宣傳ハ隨時機ヲ捉ヘテ常時反覆シ之ヲ強調シ實施狀況ニ關シテハ常時查察ヲ加ヘ貯蓄額遞増ヲ勸奨スルコト  
四、優良組合、功勞者ノ顕彰若ハ表彰ヲ爲スコト

### 磐城炭礦の従業員

## 月収百圓を突破

炭礦では月収いくらか位かといふ問合せが、殆んど毎日のやうにくるので、それ等の人々の爲に、こゝに其概況を紹介して置かうと思ふ。其大要は、本紙第一面の廣告にある通りであつて問題は本人の辛抱如何にあるのである。記者の經營して居る七年會では、冬期農閑期の頃には、二百數十人を算した會員が、農繁期の當今では、五十人内外に減つて居るが、其一割は一ヶ月百圓以上の月収を見、食費雜費を差引いても、尙且つ七八十圓から百圓の上げ金を得て、それを貯金なり國許送金なりをして居るのである。中には農繁期でも其送つた金で、臨時に人を雇つた方が、差引き利益だと稱して歸郷しないものが

- 宮城縣原郡磐瀨村 百千圓 鈴木 誠 (三六)
- 本縣伊達郡富成郡 百千圓 佐藤 清治 (三六)
- 本縣双葉郡津島村 百千圓 石川 又治 (四一)
- 本縣相馬郡山上村 百千圓 佐藤 正夫 (三六)
- 千葉縣印旛郡遠山村 百千圓 黒田喜太郎 (三八)
- 向磐城炭礦には、飯尾、圓谷、茅根、小原、川口、小豆畑、内藤、綴、長倉等の寄宿舎があつて、何れも本會に勝るとも劣らぬ好成绩を擧げて居るのである。而してこゝに改めて説く迄もなく、此事變に當面して石炭の需要は夥しきもので、當局は準軍事産業として

### 九州視察報告

社命を帯びて、五月上旬二週間にわたつて、九州方面の各炭礦を視察して歸つた、柳瀬菊次郎、茅根正夫、村松金藏の三氏は、五月三十日午後三時より、淺野翁頌徳記念館に於て、職員一同に對して、其視察概況を報告して大に啓發する處あつた。

### 磐城 軍人分會

在郷 同會にては、五月二十四日五時六時より、淺野翁頌徳記念館に於て、審議會を開催、十二年度收支決算報告並に十四年度豫算及事業計畫に就き協議を行つた。昭和十二年度決算  
總收入一八九〇圓二三錢  
總支出一八九〇圓二三錢  
内譯は之を略す  
昭和十四年度豫算  
總收入一一三二圓二錢  
總支出一一三二圓二錢  
内譯は之を略す

先南 先生 講演會  
お馴染の伊藤南州先生の講演會は、磐城炭礦従業員の爲には、五月二十八日午後六時より、村内小學校兒童の爲には、同三十日午後一時より、淺野翁頌徳記念館に於て開催、兩日共滿場の聴衆へ相變らず多大の感激を與へ、大に啓發させられた

### 青年會峰根支部

五月二十八日クラブに定期總會を開き、會務並に會計の報告、會員の表彰、幹部の改選を行つた。  
新幹部氏名、支部長佐藤榮次郎、副支部長三瓶清、幹事長、塩田新太郎 以上

### 日本社評論

取次所 内郷村報社  
東京葛西三丁目  
助産費。金七三圓三〇錢、年末給與並に遺族慰問費。金六〇圓、軍事被扶助者へ慰問費。金一一圓二〇錢、

## 教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民憲著  
(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

## 村 會 記 録

六月二日午後一時より村會を開會、引き続き三日間執行せられた。故歩兵伍長 大島陸夫

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理に實際を、歴史を實驗から新に大内民憲九主義を提唱す。天下知名の士の發同校學に過ららず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

の爲、五月二十一日淺野翁頌徳記念館に於て、素人演藝大會を開催した。晝夜二回約三十番のプログラム、

野助三郎、野木力、渡邊喜一郎、久野藤二郎、方面委員例會と

野野字之吉 大内民憲著

教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

方策ニ基キ計畫的且綜合的ニ之ガ遂行ニ當ルコト  
二、貯蓄獎勵ハ物價對策ト表裏ノ關係ニアラズ以テ一層相互緊密

其送つた金で、臨時に人を雇つた方が、差引き利益だと稱して歸郷しないものが

迄もなく、此事變に當面して石炭の需要は夥しきもので、當局は準軍事産業とし

在郷軍人分會  
同會にては、五月二十四日五時六時より、淺野翁

◎本紙贊助金寄贈芳名  
金九圓四錢 横須賀 山田貞利  
金五圓 平市 吉田喜代治

村會記

六月二日午後一時より村會を開會、引き続き三日間にわたり、戸數割賦課額決定に關する議案に就きて、各議員は夫々慎重なる調査をなし、六日午前九時より再會して、左の通り決定した。

賦課總額金貳萬七千圓  
賦課戸數二六二五戸  
内磐炭代表四七七戸  
平均一戸拾圓貳拾九錢  
最高壹圓九拾錢、最高千五百貳拾九圓貳拾錢。

執行せられた。  
故歩兵伍長 大島陸夫  
故砲兵上等兵 國分一夫  
故歩兵上等兵 小貫石松  
故歩兵一等兵 三森三郎

傷病兵慰問

本村村會議員十六名は、沼田村長齋藤收入役と同道本村出身傷病兵慰問の爲、六月七日早朝出發、先づ若松の病院を訪ね、引きかへして飯坂に一泊、翌八日同地の病院を訪ふて、夫々使命を果して同日歸村した。

名譽の戦死

昨年五月應召、〇〇部隊に屬して各地に轉戦奮闘した、宮澤出身歩兵一等兵推根菊雄君は此程名譽の戦死を遂げた旨通電があつた、眞に哀悼に堪へぬ。因に其兄勇藏君は海軍兵として出征負傷一手を失ひ、目下海軍工廠に就職して居る。一家二名の勇士を出したる同家に對しては、無限の敬意を表する次第である。

第七回村葬

今次事變に陣歿したる、左記四勇士の村葬は、五月二十八日午後一時より、第二小學校に於て、莊嚴鄭重

特志の數々

〔其一〕金五圓。大字白水服部トメ子氏、特に勞働に従事して之を得、村銃後奉公會へ寄附。  
〔其二〕金參拾圓。大字高坂長谷川政氏、嚴父欽太郎氏の葬儀費を節して、村銃後奉公會へ寄附。  
〔其三〕擴聲機二組、價格六百八拾圓。佐藤三平氏より、本村第一、第二各小學校へ一組宛寄附。

愛國婦人會活躍

本村愛國國防兩婦人會にては、相協力して資金造成

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實際に、歴史を實驗から新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の發同枚舉に邁らる。まれば未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基キ眞摯懇切ノ大精神ヲ拜味仕リ不羈嚴毅ニ教育ヲ進ムベシ云々。

發行所 日本社評論  
東京區三丁目  
取次所 内郷村報社

警防團講習會

新設の警防團に對する訓練指導の第一歩として、六月四日警察署管内各町村副班長以上の幹部(本村にては五十三名)以上を平市公會堂に招集、講習會を開催せられた。陣容全く整ひ訓練指導をうけた同團の活躍は、眞に見るべきである

金保有調査委員

本村に於ける金保有狀況調査委員として、六月十日附を以て、左記諸氏が本縣より囑託せられた。  
沼田濱之助、金澤爲喜、直井博、名畑留藏、井上恵助、山崎辰亥、山下竹千代、齋藤末造、山崎正、金澤慶一、安田宇太郎、松崎靜枝、高橋庄三郎、武藤義造、草

傷病兵慰問

六月一日方面委員例會を議事堂に開會、取扱に關する諸般の打合せ後、仙台に開會したる全國方面委員大會に出席したる大内委員の報告あり、次いで協議の結果、村助成會より目下平病院並に白鳥礦泉に療養中なる、本村出身四勇士を慰問することとなり、即日金澤助役、大内、山崎金與、山下の三委員は平病院へ。次いで田口、山崎金與の兩委員は、白鳥礦泉へ赴き、夫々懇ろに其使命を果した。

乳幼の檢診施行

目下國策として、乳幼児の體力向上を圖る爲に、昭和十三年三月以降本年四月迄に出生したる乳幼児に對して其檢診を行ふこととなり、本村にては左記日程を以て、之を實施することとなつた。  
六月十六日、御殿從業員俱樂部にて、一八八人。同十七日、第三小學校にて、一二〇人。同二十日、宮澤從業員俱樂部にて、一四六人。同二十三日、町田從業員俱樂部にて、一三四人。同二十四日、綴從業員俱樂部にて、一一五人。同二十五日、入山分教場にて、一六八人。同二十七日、村會議事堂にて、一六五人。同三十日、御厩共同作業にて、七八人。計一〇六二人。其檢診醫は、平保健所より出張してこれにあつた。

方面事業決算報告會

六月八日議事堂に開會、金澤副會長より挨拶後、左の通り決算報告があつた。  
〔收入の部〕  
金六七九圓五五錢、寄附金。金四九圓、縣補助金。金二八圓三錢、預金及貯金利息。金八四七圓四一錢、繰越金。合計金一六五三圓九錢。  
〔支出の部〕  
金五八圓六三錢、貧困者救助費。金五圓、埋葬費。金一五圓、戰死者へ香奠。金一圓、醫療費。金五圓、

### 修學旅行

#### 村内四小學校

五月二十四日午前四時四十八分修學旅行隊を連立列車は駿河を迂り出した。  
 豫め定めて置いた各學校の列車配當は、意外にも郵便車輛の二等車輛だのが突然運送されたので引率の先生方は乗車に大まごつきを演じ面喰つた。  
 九時五十六分原宿驛に到着した。一同下車するや出迎人が數十人、兩側に立ち並んでゐた。  
 直ちに二班に分れ、一班は海軍館を見學して明治神宮に参り、二班は明治神宮を参拜して次ぎに海軍館の見學をなした。

宮城前庭場に至り一同襟を正して皇居を伏し拜んだ。子供等が常に口に、二重橋を今までのあたりを拜さるるうれしき、お蔭の静けさ、宮居を包む鬱蒼たる緑の松等總て神妙しい感に打たれた。  
 これより櫻田門を通り、三宅坂を経て、徒歩で靖國神社へ向つたお蔭に沿ふて進むと誠に感じがよい。靖國神社を参拜して、から遊就館、國防館を見學した。皆珍らしい物、有益な物ばかりであるが、相當疲れた。

茲で食食を取り、九段下を通り和田倉門前を経て、東京驛に至り再び省線電車に乗つた。そして上野で下車し午後三時五十分上野發の特別編成列車で歸路に着いた。例年歸りの列車では、子供はぐつたりと弱つたものだが、本年は一泊したので大元氣であつた。加之靖國神社へは往復共歩つたので、東京の概念もはつきり頭に沁み込んだ様子で、今までのない有益な修學旅行だつた。  
 △児童八六五。△教員四〇。學務委員其他附添二〇。△校醫三看護婦五。

### 第十回 方面委員大會概況

石城郡方面委員 聯合會 會長 大内 民 惠

十一時頃から細い雨がやつて来たが、一同は大元氣で午後一時原宿驛から數班に分れて、省線電車に乗つた。上野驛で下車し直ちに動物園に向つた。子供達は生れて初めて見物園内の珍らしい動物に見されて大喜びである。併し細い雨は依然として降り続いて止む様子が無いので、一同各の宿舎に引上げた。高坂校だけは東京まで子供を連れて来て、淺草の夜景を見せないので誠に残念なので、夕食を済してから地下鐵を利用して、數班に分けて淺草觀音に参詣して夜景を満喫させた。田舎の子供に比べて、此の夜景は忘るゝことの出來ない印象を残した。  
 五月二十五日目をさますと、空いつばい重い雲である。併し雨は降つてゐなかつた。昨日淺草へ行かなかつた子供達は、八時までに淺草を参詣した。  
 午前八時から數班に分れ、上野驛から省線を利用して東京驛へ向つた。それから楠公銅像を仰ぎながら

仙台市に開催せられた、第十回方面委員大會には、本郡から同當出席希望者があつたのであるが縣下を通じて僅かに四十名と限られたので、之に出席の指名をうけたのは、藤社大、遠藤喜三郎、久野顯榮、丹野寛平及予の五名であつたので、予は郡下百十余名の委員諸氏に對して、其報告をなすべき責任を有するものと思つたので、茲に其概況を略述して、郡下全員に本紙を贈呈することとした。

第一日 五月二十四日午後一時開會、會場仙台文化キネマ劇場。出席者約二千名、本縣からは井上社會課長、中山主事、藤巻地方委員外三十七名。  
 開會之辭。宮城通拜。黙禱。物故方面委員並方面事業關係者慰靈祭。獻華。全日本方面委員聯盟代表、宮城縣代表、物故者遺族代表、全國方面委員代表、來賓代表。慰靈辭、大會々々、

全國方面委員代表。  
 宣揚式、君ヶ代齊唱、教育勸語捧讀、皇太后宮御歌奉唱、式辭告辭、厚生大臣、宣言。  
 祝辭、内閣總理大臣、宮内、内務、陸海軍、司法、文部、拓務各大臣、中央社會事業協會會長、國民精神總動員中央聯盟會長、日本商工會總所會頭。以上  
 一休 總一

第一、協議總會、挨拶、會務報告、諮問事項提示、協議事項提示、研究事項提示、各種報告。  
 第二日 同二十五日午前八時開會、第一特別委員會、於仙台市會議室、諮問事項提示、本縣より保藤憲國出席。  
 一、第二特別委員會、於宮城縣圖書館、協議事項提示、本縣より大内民惠出席。  
 一、研究部會。  
 第一部會、於仙台公會堂、都市向事業保護實例の發表研究。  
 第二部會、於東京帝大法文學部講堂、農村向事業保護實例の發表研究。  
 第三日 同二十六日午前八時開會、各特別委員會報告並決議、各研究部報告、特別講演、内閣參議院軍大將、松井石根閣下、開會之辭、萬歳三唱、散會。  
 宮城縣知事並仙台市長招待會、午前十一時より、於仙台文化キネマ劇場。

表研究。  
 第三部會、於仙台市集會室、都市向一般實例の發表研究。  
 第四部會、於仙台商工會議所講堂、農村向一般取扱實例の發表研究。  
 第五部會、於宮城縣會議室、都市向方面事業進展實例の發表研究。  
 第六部會、於齋藤報恩會館講堂、農村向方面事業進展實例の發表研究。  
 以上各部會には、全國方面委員割當出席。

坑夫におくる 遠 藤 生  
 朝のかさでのおもかげを  
 そつと抱いてしみじみ  
 神に念じて針はこぶ  
 女こころのいじらしさ  
 無事な姿にいそよよ  
 つい小走りかければ  
 湯上り化粧を風なぶる  
 白地單衣をだててまきて  
 酌いて風扇で風おくる  
 心づくしをむけてうけ  
 笑顔にむけて灯も映える

長期建設下ニ於ケル國民生活ノ安定ヲ圖ル爲ニ政策ヲ講ゼラントテハ各般ノ施設對策ヲ講ゼラシメ我等方面委員モ亦方面委員令ニ示サレタル指導精神ヲ堅持シ益々之ガ昂揚實踐ニ努ムメテ時局ニ對處シツ、アル處ナルモ生活強化ニ方リ精神の指導ノ徹底ヲ期スルニハ我等平素ノ實際活動ニ微シ特ニ左ニ掲ケル事項ニ付留意スベキキント認ム

第一國民生活ニ於ケル精神的指導ノ一般方策。第二軍人ノ遺族家族ノ家庭強化ニ關スル方策。第三時局ノ影響ニ因リ収入ノ増加セラルルニ對スル精神的指導ノ方策。第四一般要扶掖者ニ對スル精神的指導ノ方策。第五其他(以上五項ノ内容ヘ之ヲ略ス)を答申した。

次に我々第二特別委員會に於て、協議に附せられた  
 一皇紀二千六百年記念事業ニ關スル件  
 對しては  
 皇紀二千六百年記念スベキ事業ハ多クアリト雖モ我等方面委員ハ現下重大事局ニ鑑ミ一層方面精神ノ昂揚ニ努ム其ノ任務タル本制度ノ活動並ニ研究ノ完壁ヲ期シ以テ國民精神ノ強化統後國民生活ノ安定ヲ致シ益々華國ノ精神ヲ發揚スル所ナカルベカラズ依テ左記ニ依リ活動ノ機關ヲ設立シ計リ修養研究方面ニ機關ヲラシメ右趣旨ノ實現ヲ期セン

一、設置場所、東京市  
 一、之ガ實現方ニ關シテハ聯盟本部ニ於テ各方面ノ希望ヲ充分斟酌シテ具體案ヲ作成報告スルコト  
 一、社會調査並方面世帯整理ノ徹底方ニ關スル件  
 一、對しては、二大項目を擧げて之ガ審議決定をなした。

而して翌二十七日は全員益松島山を遊覽した。何れも兩市招待。

### 内郷村報の

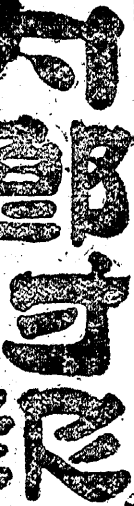
### 六大使命

- 一、政治經濟を基盤として、村方政策を推進する。
- 二、村内各私各種團體の活動状況を把握し併せて其協力を計り、總現和總努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村方の改善進行を遂げ、日之を榮ふ。
- 五、本村の本村團體者及本村團體者との聯絡を計り、且其總現和を期す。
- 六、本村の改善進行を遂げ、日之を榮ふ。

國民貯蓄獎勵運動開始以來貯蓄ノ増加ハ各方面ノ協力ニ依リ順調ナル狀況ヲ示セルモ未ダ必ズシモ充分ナリト稱シ難シ惟フニ事業ハ

自發的ニ貯蓄スル風氣ヲ作興スルコト  
 (三) 貯蓄増加百億圓本縣一億圓ノ目標ヲ達成スル爲ニハ縣民衆

貯蓄ノ強化  
 (一) 都市及農産方面ニ對シテハ特ニ力ヲ注ギ高率貯蓄ノ實行ヲ期スルコト



天法人則 從順ナ

國民貯蓄獎勵運動開始以來貯蓄ノ増加ハ各方面ノ協力ニ依リ順調ナル狀況ヲ示セルモ未ダ必ズシモ充分ナリト稱シ難シ惟フニ事業ハ

自發的ニ貯蓄スル風氣ヲ作興スルコト  
 (三) 貯蓄増加百億圓本縣一億圓ノ目標ヲ達成スル爲ニハ縣民衆

貯蓄ノ強化  
 (一) 都市及農産方面ニ對シテハ特ニ力ヲ注ギ高率貯蓄ノ實行ヲ期スルコト